

五観中だより

広島市立五日市観音中学校『学校通信』第7号

※ 裏面に9月行事掲載

平成23年8月6日 発行

【正門前「校訓」碑】



戦争や被爆体験を言葉で継承する重み...今夏で66年目

あなたは、広島への原爆投下の年月日と時刻を問われたら、正確に答えられますか。広島市内の中学生ですら、正解率は60%を下回るそうで、その率は、近年徐々に低下してきているようです。決して繰り返してはならない苦い経験がこのまま風化していくのでしょうか。私たちは、ここに危機感を持たないといけません。

被爆から66年。被爆体験はもちろん、何度か重ねた「過ち」である戦争体験をふまえ、現在も世界のどこかでおこっている国際紛争や内戦、貧困などの問題、理不尽にも人を傷つけ痛めつけ、中には殺人まで犯してしまうような社会悪について真剣に考え、平和を守っていくよう行動できる人間を、一人でも多く育てていかなければなりません。

生まれてから平和にどっぷりとつかり、ゲームなど最新の文化で虚像と現実の区別をしっかりとつけられなくなっているかもしれない現代の若者。実は、彼らを育てる親も、教え導く教師も、二度と繰り返したくない戦争や被爆の体験はありません。大人もふくめ、しっかりと語り継いでいけるようにせねばと思います。

私は、この広島で学び暮らせることを幸運だと感じています。学校の平和学習などで、被爆者の方たちに直接お会いして話をうかがえるからです。幼い頃は体験談を聞くのが苦手でした。被爆後の惨状がまざまざと浮かび、恐怖とともに迫ってくるのです。

しかし、成長するにつれて「恐怖」の意味は変わってきました。本当に恐ろしいのは、原爆の破壊力、今も多くの人を苦しめる放射線の影響、そして、被爆者の方から話をうかがえる時間が限られていることです。被爆体験の継承という、ヒロシマが直面している課題を切実に感じています。数十年もすれば、当時の状況を知る人はいなくなってしまうのです。私たちが言葉の一つ一つをまっすぐに受け止め、被爆者の方が本当に伝えたいことを理解しなくてはなりません。写真や資料だけでは、未来の子どもたちも、私と同じように表面的な「恐怖」しか感じないのではないかと思います。

心を動かすのは、実感のこもった言葉です。被爆者の思いを受け止められるのは、幼い頃から平和学習に取り組んできた広島の若者です。核兵器がもたらす恐ろしさの意味を自分の言葉で伝えられるよう、まだまだ学ばなければいけません。

～『中国新聞』の「わたしの平和宣言」より～
広島市在住のある女子高校生の意見作文を一部抜粋

「平和」を考えるものを見聞さし、身近な人と語りましょう。

【図書室での4月20日～7月19日の学級別貸し出し状況】

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	計	1学級あたり
1年	164	57	24	49	125	30	449	74.8
2年	119	307	303	51			780	195.0
3年	47	4	32	54			137	34.3

【6月貸し出し人気ランキング ベスト3】

- 第1位 『はだしのゲン』 中沢啓治
- 第2位 『三丁目の夕日』 西岸良平
- 第3位 『機動戦士ガンダム』 福井晴敏

作者ご自身、6歳の時に被爆しておられます。2009年に引退を表明されました。





ライトダウンキャンペーンでいろいろなことを考えさせられた

「明かりを消そう」という全国的な取り組みを、2日間実践してもらったわけですが、いかがだったでしょうか。環境問題や大震災・原発のこと、身近な家族のことや自身の日常生活など、いろいろと考えたり見つめ直したりする機会となったようです。下表の数値で、成果を実感してください。ところで、8月31日までがキャンペーン期間であることを意識していましたか？

ライトダウンキャンペーン期間中の 6月22日と7月7日の取り組み成果	1年生の ご家庭	2年生の ご家庭	3年生の ご家庭	合計	取り組んだ者 一人あたり
各学年・本校の生徒数	180	154	160	494人	
2日間各家庭で取り組んだのべ人数	444	165	489	1098人	
2日間で削減されたCO ₂ の量(kg)	69.12	42.357	70.503	181.98kg	0.166kg
1年間続けて取り組んだ場合、何本のスギの木が1年間に吸収するCO ₂ 量に相当するか	901.1本	552.1本	919.1本	2372.3本	2.16本
2日間で削減された電力(Wh)	103164	63219	105228	271611Wh	247.37Wh

〔※樹齢50年のスギの木が一本あたり一年間に平均して約14kgの二酸化炭素を吸収するそうです。〕

Q.この取り組みを通じて思ったことは？

A1.特にいつもと変わらなかった。ということは、一つ一つをていねいに消せば、節電は簡単にできることがわかった。(3年男子)



A2.いつもより早く電気とテレビを消したので、たくさん寝ることができた。(3年女子) A3.今まで必要でない時もテレビをつけていたけど、このキャンペーンに取り組んでみて、やっぱりもったいないなと思いました。(3年女子) A4.たまにはテレビのない生活もいいかなと思いました。(3年男子) A5.テレビや電気を切ることで、なんだか部屋が涼しく感じた。(3年女子) A6.一つの部屋に全員が集まり、会話が増えたと思います。

今まで個々の部屋の電気が、ムダについていたと思いました。(3年男子) A7.たった2時間

だったけど、いつもはついている明かりを消すと、すごく大変だった。でも、2時間でこんなにCO₂が減るなんてビックリ!(3年女子) A8.勉強中に部屋の電気を消して、

机の電気だけで勉強したので、少し暗かった。(3年男子) A9.みんながやれば、ずいぶん効果が出ると思った。(3年女子) A10.夜は静かということが改めてよくわかった。少し消す

だけでCO₂が減るなら、日頃からやってみようかなと思った。(3年女子) A11.自分にもできることがあったのかと改めて実感した。(3年女子) A12.明かりを消すことで真っ暗になって、被災

地の人の気持ちがわかった気がした。(3年男子) A13.テレビを消すことで、勉強や食事などを集中してやるようになって、とてもよかった。(3年女子) A14.テレビを消したことで、家族との会

話がはずんだ。(3年女子) A15.暗くなったらとても不便で、テレビが見られなかったのが一番つ

らかった。光は欠かせないと思いました。(3年男子) A16.電気があることで、私たちは助かっ

ているんだと思いました。(2年女子) A17.暗かった。一時間消しただけでもつらかった。(2年男子)

A18.普段から、使わない明かりを消すようになった。(2年女子) A19.なるべく扇風機などを使わ

ず、窓を開けていました。でも、たまに部屋の電気を消し忘れる時があります。このキャンペーンで

本当に心がけようと思いました。(2年女子) A20.部屋が暗い方が落ち着いた。(2年女子) A21.電

気にとってもたよって生活していることがわかった。(2年女子) A22.東北の被災地の人に少しでも

役に立ったらうれしいと思います。(2年男子) A23.東北のことがあるので、なるべく電気を使わ

ないように意識していきたいです。(1年女子) A24.みんなで同じ部屋にいたから、たくさん話

ができた。(1年女子) A25.いつも通り部屋の明かりをこまめに消しているから、違う生活とは感じ

なかった。(1年男子) A26.電気がないと生活できないなと思った。(1年女子) A27.自分の部

屋に入らず、ゲームをしなかったので少しヒマでした。(1年男子) A28.家の人(母や兄)も協力して

くれないと、そんなにできない。(1年女子) A29.いつもと違う生活は少し大変でした。(1年女子)

